

境調査の進捗状況として、気象調査は平成十八年九月までに終了していること、地質調査は現在、分析・評価が進められていること、環境アセスメントは調査結果を踏まえ、分析中であること、また、環境アクセスの流れ及び電源開発の手続の一般的な流れについての報告・説明を受け、その後、原子炉設置許可申請に関する質疑があり、原子炉設置許可申請の審査の在り方については、今後、内規の作成状況等を注視していきたい旨の答弁があった。

イ 地元発注・雇用について

当局から、企業への発注済額七億二千六百七十万円には市内企業への元請及び下請の金額を含んでいること、薩摩川内市の雇用の累計三万二千七百九十三人は市内企業の元請及び下請として作業した人数並びに市外企業が直接地元在住者を雇用した人数も含んでいること、地元雇用人数に対して地元発注金額が低い理由についての報告・説明を受け、その後、質疑があった。

ウ 九州電力株式会社川内原子力発電所専属自衛消防隊の消防体制について

当局から、専属自衛消防隊の設立経緯、組織、勤務形態、配備車両の能力、消防局との合同訓練の

概要について報告・説明を受け、その後、化学消防車の能力、今後の訓練内容、東京電力株式会社柏崎刈羽原子力発電所と同程度の火災を消火可能であるか、原子炉建屋までの消火活動に要する時間等について質疑があり、地元の火災に対する専属自衛消防隊の出動要請については、訓練の状況を見極めながら他の原子力発電所の動向もみながら九州電力株式会社と調整していきたい旨の答弁があった。

産業廃棄物管理型最終処分場対策調査特別委員会

委員長 新原 春二

四月九日・六月五日開催

参考人として、鹿児島県産業物

・リサイクル対策課の中園参事、

藤崎参事及び中村主幹兼係長、同

課薩摩川内市駐在の前田参事、種

子島参事及び新田参事付並びに鹿

児島県が調査を委託している応用

地質株式会社から、四月九日は内

田上級専門職及び眞鍋スタッフリーダー、六月五日は大山洋一鹿児島支店長に出席要請をし、鹿児島県産業廃棄物専門委員会に報告した立地可能性等調査結果の概要及び関係自治会等と鹿児島県知事との意見交換について説明を求めた。

を受けた。また、模型を用いて施設配置、遮水構造の説明を受け、質疑を行った。

なお、審査の過程において述べられた意見・要望の概要は、次のとおりである。

(一) 立地可能性等調査結果について

①鹿児島県の主催で行う地元説明会等においては、丁寧な説明を行い、地元住民等との信頼関係の構築に努められたい。

四月九日の審査においては、基本条件として埋立容量の設定及び耐震設計の考え方、配置計画の検討としてゾーニング計画及び配置計画、各施設の検討として覆蓋施設、浸出水処理施設、浸出水集排水施設、地下水集排水施設、埋立ガス処理施設及び換気施設、管理施設、防災施設、リスク管理の検討としてリスク管理の考え方、ハード面及びソフト面(維持管理)

②鹿児島県の行っている立地可能性等調査については、特定の学識者のみでなく、他の専門家の意見を聴くことも検討されたい。

及び鹿児島県産業廃棄物専門委員会での主な意見及び他県の基盤(岩盤)の状況について説明を受け、候補地内の底に当たる部分の岩盤の状況を把握するため、更に二箇所でのボーリング調査を行う予定であるとの説明を受けた。

(二) 関係自治会等と鹿児島県知事との意見交換について

六月一日に行われた関係自治会等と鹿児島県知事との意見交換の概要についての説明を受け、質疑を行った。

なお、審査の過程において、関係自治会等と鹿児島県知事との意見交換会を再度開催されたい旨の意見が述べられた。

六月五日の審査においては、追加ボーリング調査結果、生活環境等に影響のある調査、鹿児島県産業廃棄物専門委員会での主な意見及びエコクリーンプラザみやざきの浸出水漏水の状況について説明

七月二日開催

四月九日・六月五日・三十日・

参考人として、川内商工会議所

○審査の経過及び結論

(一) 陳情第三号 公共関与による産業廃棄物管理型最終処分場の建設促進を求める陳情書

参考人として、

参考人として、